

第5回 長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会 議事録

日時 平成21年8月31日(月)

午後1時30分から

場所 市役所第一庁舎8階 第2委員会室

【出席者】

	氏 名
委員 (7名)	市川浩一郎委員、金澤玲子委員、越原照夫委員、石川利江委員、渡辺晃司委員、野崎光生委員、樋口敦子委員 (欠席：高木直樹委員)
事務局 (7名)	横山まちづくり推進課長、宮下中心市街地活性化対策室長、瀧澤係長、長谷川主査、神田主査、西澤生涯学習課長、山岸係長 (生涯学習課)

1. 開会
2. (都市整備部長あいさつ)
3. 委員長あいさつ
4. 議事

(1)平成 20 年度事業実績報告について <資料1>

(説明者:事務局)

A委員	質問はあるか？
G委員	11. 善光寺周辺地区街なみ環境整備事業は事業費がたいぶ多い。9件とあるが、他は、どんな事業があるのか？
事務局	修景助成として9件。その周りの住宅、店舗など直しているものが8件ある。この他、道路整備がある。駒返り橋周辺は、電線を地中化し、石畳にしている。9件と言うのはH20年度の修景助成の件数であり、これまでも何件が行ってきている。 事業費もH20年度だけのものではない。19～23年度までの5カ年における事業費の総額となっている。H20年度の実績は約40,000千円である。
A委員	他にあるか？
D委員	野外彫刻ながのミュージアム事業で、H20年度だけが6,800千円で、他年度より多いが理由があるのか？
事務局	設置数は変わっていない。
D委員	これは、作品価格のみなのか。設置費は別か？
事務局	事業費になるので、おそらく設置費も入っている。 後ほど、担当課の生涯学習課が来るので、そのときに確認したい。

(2) 数値目標の最新数値について <資料2>

(説明者: 事務局)

A委員	目標④の数値は、これからは、この数字を維持していくということになる。
G委員	目標③「歩きたくなるまち」の数値が下がっているが、具体的な対策があるのか？
B委員	調査日の関係もある。7月調査の速報値のようなものは出ていないのか？
事務局	9月下旬に出る。今回、天候の関係で7月の第3金曜日と第4金曜日に分かれてしまった。9月の第1金曜日にサブ調査もするので、その数値もあわせて、次回の委員会で報告したい。
B委員	目標③の調査日は1日で、ポイント数は15地点。目標④の利用者数は年間を通してのものであるが、そちらの数値は増えているので、その事を考えると、ある地点では落ちていても、ある地点では上がっているはず。そういう事をトータルで考えないといけない。「総数で落ちているから、賑わいが無い」とは言えない。そのあたりの理解の仕方を説明した方が良いと思う。
事務局	国への報告は、この数値になってしまう。H20年度の数値では、歩行者自体の数値は増えている。自転車・バイクが減っているため、全体の数値が減ってしまっている。ポイントによっては上がっているところ、逆に下がっているところがある。そのあたりも、国に説明している。ただ、全体で公表されるのは、このグラフの数値になってしまう。
C委員	「歩きたくなるまち」なので、自転車通行量は、はずせないのか？
E委員	通行量調査に、今まで入れてきた。
C委員	全体では、落ちているのだが、自転車とバイクを入れなければ、歩行者は上がっている。TOMATO食品館前のポイントも同じで、通行量としては、落ちているが、自転車・バイクをはずすと伸びているし、TOMATO食品館の来店者も伸びている。ここ2年程、自転車・バイクは急激に減っている。 目標②「住みたくなるまち」に関して、H21年度はマンションができています。今年は2つできる。が、その後、落ちていく可能性がある。少し、方向を考えていかないと難しい。 「歩きたくなるまち」なんだから、自転車・バイクは抜いてもいいのではないか。
B委員	「訪れたくなるまち」にも、自転車・バイクが入っている。
事務局	国に「歩行者だけに切り替えたい」と相談したが、だめだった。
B委員	グラフの順番を目標①③②④の順番に変えたらどうか？実質、増えている事がわかれば良い。歩いている人が増えているというのが、活性化の大きな指標になると思う。提出の仕方を工夫してもらいたい。
D委員	「参加したくなるまち」のもんぜんぶら座と生涯学習センターの比率はどうなっているのか？
事務局	H20年度のもんぜんぶら座の利用者は、290,485人。生涯学習センターの利用者は77,724人。
D委員	もんぜんぶら座にかなり助けられている。
事務局	規模も違う。生涯学習センターは、3、4階だけ、もんぜんぶら座は地下1階から8階までである。働いている方はカウントされていない。 TOMATO食品館のレジ通過人数も入っていない。あくまで公益施設の利用者をカウントしている。

C委員	生涯学習センターは、利用数を上げる目標を持ってやっているのか。利用するのに制約が多いと聞いている。
事務局	利用者の方の声を聞きながら、大勢の方に使ってもらえるようパワーアップ検討会など、皆さんの声を聴く会も設けている。今まで、昼食も周辺に出かけてもらおうと思いき飲食禁止であったが、午前と午後の間に1時間しかなく、周辺に一度に何百人と収容できる施設もないことから、昼食の持ち込みなど飲食について、条件により可能とした。小さな事だが、少しずつ変えてきている。

(3)基本計画の変更について <資料3>

(説明者:事務局)

A委員	質問はあるか?
全員	ない

(4)その他

野外彫刻ながのミュージアム事業(まちなか編)について <資料4>

(説明者:生涯学習課)

D委員	長野でただ一つ継続している文化事業である。意見はいろいろある。一つは選考委員会がクローズされている事。市民には非公開で作者が決まっている。もうひとつ、富山市は、長野市より以前から、このような事業をしていて、もっとたくさんの作品があるが、街じゅうに彫刻があふれても、文化的、芸術的に美しい都市環境はできない。適切な場所に適切な形であってこそ、彫刻は活きると思う。長野市には、日本を代表する彫刻家の作品がたくさんある。設置費も含めてこの値段か?
生涯学習課	設置費も含めている。
D委員	だとしたら、ものすごく安いと思う。金属のものだと铸造だけで、100万円~200万円かかる。石材も石だけで100万円位かかる。この値段で作品を作ってもらえるというのは、長野市が継続してきた成果だと思う。 もう一つ違う予算で城山公園などを利用して(観光対応ではなく)、10点でも12点でも良いので集めて彫刻の公園にするなど(城山公園でなくてもよいが)、どこかに集中して長野市が集めてきた代表作が見られるようなものを作ってほしい。散策マップやツアーを行うのもわかるが、彫刻の場合、それが魅力的なものには、なかなかならない。城山公園もあのままでは、もったいないと思う。ぜひ、設置する費用の他に、もう少し活かした使い方をしないともったいない。
生涯学習課	彫刻公園というネーミングも含めて考えてくという意味合いで良いか?
D委員	長野市で美術館を作るのは絶対に無理だ。県立美術館をより良く利用していく事を考えたほうが良い。県立美術館も大変苦戦しているので、善光寺から人の流れ、アートの道をつくるという意味でも、ぜひ検討してもらいたい。長野県信濃美術館館長も、一度長野市に話しているようだ。
C委員	長野市全域にということに無理がある。見直していかないと難しい。

B委員	原則として、場所があって作っているのだから、それを集めるというのは失礼になってしまわないか。
D委員	この事業は、気になっていて10年位見てきたが、場所があるとは思えない。選考委員が場所を見ているのか。
生涯学習課	選考委員が場所を見て、そこにあう彫刻が作れる人は誰かということで選考している。
C委員	その時は、そうであったが、周りは時間とともに変わってしまう。
B委員	そもそも、「彫刻の持つ芸術性を都市の景観に活かすことによって…」とあるが、都市の景観を活かすために彫刻を置く事があるのかという事もある。
C委員	都市の景観に対する認識もバラバラだし、景観は変わるから難しい。
D委員	選考委員には、地元の人も入っているのか？
生涯学習課	今の選考委員は、芸術大学の教授などで、地元の人はいない。
D委員	有名な方ばかりなので、美術界のバランスで選んでいるのはわかるが、今回の三沢厚彦さん、今若い人たちにとても人気のある方。そういう方こそ、もっとまちなかの若い人達が集まる場所にあっても良い。長野市を知らない人がそこに合うものを選ぶのは難しい事だと思う。実は美術の世界での自分たちの力の示し方に使われていることもある。それは、全く悪いことではない。そうでなければ、こんなに安くできない。その辺をうまく活かしながら、長野市の利益に持ってってもらいたい。
A委員	篠ノ井にある「ローマの公園」は、なぜ篠ノ井にあるのか？
生涯学習課	ちょうど市有施設ができた時に設置された。 選考委員の方にはいろいろな場面で、「こういう声があります」といった話は伝えている。「抽象的なものが多い」と言われているなど……。しかし、その道に造詣の深い方たちなので、「ここにこういったものを置いてください」といった要望を言える状況ではない。
D委員	いっそ公募にするとかは、どうか？話題にはなる。急に体制を変える必要はないが、選考委員に、地元の人が入っていないのは不自然だと思う。
A委員	もっとPRしたらどうか？
D委員	しているのだが……。立派な本もある。
C委員	興味が無いということで、さほど育てないということか。
D委員	これだけ長い間で、まとめればかなりの金額になるのだから、これを文化資本として長野市が使いこなさなければ、税金の無駄遣いだと思う。いまのままの状態では、文化資本になっていない。
C委員	この資料をみると、今後も広域に適当に設置していくという事になる。目的を持って設置していくという事ではない。長野市全域となれば、さらに広がっていくのだから……。目的を持って集中してやらないと効果は出てこないのではないか。
A委員	あるところに集中させる事で人が集まる。それが活性化につながるという意味では良いのではないか。パラマキではいけない。意見として参考にしてもらいたい。

まちなか居住支援事業について <資料5>

(説明者:まちづくり推進課)

A委員	意見はあるか？
G委員	1～2ヶ所に絞り込む予定とあるが、それはどこか？
まちづくり推進課	(手持ちの地図により)中心市街地をいくつかのブロックにわけて、7月に歩いて調査した。各地区の状況を図にし、9月に開催する協議会でどの地域にするのか決定したい。
E委員	総合調整会議幹事会は、縦割りでなく横のつながりを作る事をつくったが、それはどうなったのか？
まちづくり推進課	継続している。
E委員	「住みたくなるまち」はマンションだけでは無理。スーパー、役所、病院などの条件がそろわなければ…。環境を育てなければいけない。総合調整会議幹事会推進部会では、そのあたりも含めてやっていかなければならない。「歩きたくなるまち」は商店、「住みたくなるまち」はマンションがメインだが、公共施設などのまわりの環境の事も考えていかないと「住みたくなるまち」も「歩きたくなるまち」もできない。行政の縦割りの弊害も感じている。このようなプロジェクトチームができたので、頑張ってもらいたい。
F委員	目標②プロジェクト会議とまちなか居住推進検討会議の関係がわからない。この後の展開としては、対象地域を決め、施策を会議で提案するのか？
まちづくり推進課	総合調整会議があり、その中に推進部会がある。プロジェクト会議というのは、担当課から担当者を選任してもらい、プロジェクト会議としている。総合調整会議の下に位置づけている会議で、担当者レベルの会議である。 市のほうは、庁内で横の連携をとっている。もう一つ中心市街活性化協議会のほうでは、民間の方も入っている。それぞれ連携をとりながら進めていく。庁内のほうでは、すでにいろいろな質問が出ている。中心市街地域に「まちなか居住」を促進する地域があるのか等。双方、並列で進めていく。
F委員	協議会で決めたことを行政に提案するということか？
C委員	そうだ。 気になる言葉があったが、「まちなか居住」に疑問を感じるということだが…。
まちづくり推進課	「まちなか居住」を進める上で、住宅を供給できる場所があるのかという事だ。例えば、高いビルばかりのところでは住宅を作ること進めるわけにはいかない。「まちなか居住」を促進する事が可能な場所があるのかという意味である。
C委員	前の基本計画ではブロック分けしていた。
B委員	まちなか居住調査専門委員会で決めているものもある。
C委員	まちなか居住ができるかできないかではなく、するんだという認識でいてほしい。
まちづくり推進課	中心市街地全体で考えるのが良いが、まずは木造住宅の密集している場所を選定して、まちなか居住の一例として何か始めたい。まちなか居住は、考えると範囲が広い。

C委員	確かに、まちなか居住を考えると、いまの中心市街地の区域が良いのかどうかという論議はあると思う。が、その論議があった上で決まった事だ。
B委員	資料に「中活事業の進捗状況がはかばかしくない場合に、数値目標達成の見通し、今後の対応について検討することを目的に『総合調整会議幹事会』を設置する」とある。かつ、「マンション建設以外及び個人に対する直接的な補助金以外の居住人口増加策を検討したい方針に対する意見交換」とあるが、マンション建設以外及び個人に対する直接的な補助金以外というのは何なのか？ 民間でやる事と公共でやる事は違う。例えば、昔は店舗でそこに住んでいたが、家族構成の変化で一旦郊外に転居し、マイカーで毎日まちなかに通っている。それを、まちなかに居住を戻すことによって、居住人口も増えるし、商業も活性化する。人が戻ってくることによって、まちなかに安心、安全が戻ってくる。そういった施策は考えていないのか？そういった事に対する補助金はちょっとした事で良いと思う。たとえば、引越費用を出すと、補修改修費用の一部を負担する等。もともとある資源を使って居住人口を増やす事は可能だと思う。
C委員	協議会でやっているのは、市ができる事、民間ができる事、中間的なまちづくりの機関ができる事を、不動産鑑定の方に見てもらい提案してもらおう。その事業をやろうとしている。どこが提案に適した場所か、自分たちで歩いて見てみようというような事をやってきた。この後、協議会としては、何社かの業者にプレゼンをしてもらい、各役割を明確にして、提案していきたいと考えている。今現在は、「個人にはお金を出不さい」というのが市の結論と聞いている。施策が手詰まりの状況にあるので、他の施策を庁内で検討してもらっている。なおかつ、協議会からの提案を具体的な施策にすべく、調整会議を通して、答えを出してもらおう。 中心市街地に人を住まわせる事は土台なので、そこに疑問を持つという事はおかしい。
E委員	長野市総合計画、都市計画マスタープラン、住宅マスタープラン、中活基本計画、この4つは基本である。推進部会はこの4つを基本に考えてほしい。 住む必要がないと言われれば、この委員会の意味がない
まちづくり推進課	今日の資料は、いままでの経過を示している。「マンション建設以外、個人に対する直接的な補助金以外の施策」ということで、昨年の予算編成のうちに、富山市や金沢市にならい、家賃保障などを提案したが、予算がたたなかった。H17年度にもまちなか居住調査専門委員会を開いて検討していただいた。それをベースにした上で、進めていかなければならないと考えている。 数値は目標値には、遠い。少なからず長野市でも目標値を見据えた施策をうっていかねばならない。活性化協議会にも相談しながら、二本立てで検討している。長野市ができる部分と民間の力を貸していただける部分と二本立てで、今後進めていきたい。 今回の説明は、庁内でプロジェクトチームを作り、その経過をここに示している。広い視野で見なければならないという事は、プロジェクト会議の中でも意見が出ている。住むためにはどんなものが必要なのか、イメージを変えたほうが良いのではないかなど、いろいろな意見が出されている。具体的な内容は示せるものがないが、少しずつ示していきたい。
E委員	歩行者通行量調査だが、商店会では、調査のための人手が不足している。補助金は5,000円だ

	<p>が、シルバー人材センターにたのむと 10,000 円となってしまう。商工振興課では、予算は増やせない。各商店会から、調査の人手を出してもらっている。天候の都合などがあり、ボランティアを頼むのも難しい。一番は調査費用の問題がある。あと3年はやって欲しいと各商店街にお願いしている。</p> <p>予算は商工振興課だが、データを使っているのは、まちづくり推進課。また、まちづくり推進課では、来月実施するサブの通行量調査は自分の予算でやっている。というような形で、縦割りの弊害だと思う。</p>
まちづくり推進課	<p>数値目標になっている数値というのが、商工会議所で行っている調査(7月に行うもの)の数値である。その費用は商工振興課から負担金が出ている。基本計画策定時に内閣府からサブ調査も必要と言われ、行っているサブ調査(9月に行うもの)は、まちづくり推進課が行っている。</p>
E委員	<p>場合によっては、9月に市で行っているのに、なぜ7月に商店会でやらなくてはいけないのかという意見もある。40年間ほど調査を続けている。こんな商店街はない。</p>
まちづくり推進課	<p>中心市街地活性化基本計画は、当課だけの事業ではない。商工振興課も入っているし、教育委員会も入っている。当課が事務局をしているだけであり、どこからお金が出ているかは、役所の中で連絡をとってやっている。まちづくり推進課が予算を持っている、商工振興課が予算を持っているというような事ではなく、一つの目標に向かって進んでいくという事で理解してもらいたい。</p>
A委員	<p>横断的なチームを作ったという事は、前進であるので、予算の面でも前向きでお願いしたい。</p>
C委員	<p>プロジェクト会議では、どんな意見が出たのか？</p>
まちづくり推進課	<p>マンション、個人への直接補助以外に果たしてどんなものがあるのか、といった意見。居住問題なので、非常に難しい、といった意見。なかなか良い知恵が出ていない状況だ。</p>
C委員	<p>先程、意見が出たように、商店街の方に居住して商店をやってもらおうのも一つの手法だと思う。</p>
まちづくり推進課	<p>プロジェクトチームを、福祉関係、住宅関係、総合的に見る等グループ分けしている。</p>
B委員	<p>住民自治協議会と連携する事も重要ではないか？</p>
まちづくり推進課	<p>コミュニティも非常に重要な分野だと思う。地域振興課も入っているので、その旨も伝えたい。</p>
G委員	<p>資料に、「候補地として想定しているのは、区画整理が進まず立地上立替が困難な古い木造の家屋が密集している地域」とあるが……。松本へ行ってきた。住んでいたり、まちの匂いがして、長野市でこんな場所はないなあと感じた。どこにでもあるような、建替えられた建物があるのなら、わざわざ長野にくる必要はない。長野らしいものがある場所をどうやって大事にしていくかといった切り口で見ていく事も大事だと思う。</p> <p>再開発というと、昔からあったものを壊して、多額なお金を国からもらってビルを建てる。それは、どこのまちにもあるような雰囲気になってしまう可能性がある。お金が動くの良い事もあるが、結果的には長野の良さをなくしてしまう可能性が高い。</p>
D委員	<p>普通に住むだけでなく、ある地域はアーティストレジデンスのようにしてはどうか。市からの補助金で桜枝町にチェコのアーティストが滞在している。そこは使われていなかった元鉄工所だ。</p> <p>アーティストは定収入がないため、家を借りるのも大変。アトリエ的に期間を区切って居住者を</p>

	募集するようなエリアがあっても良い。信大の先生方と始めた小さな活動だが、となりの人も貸しても良いと申し出てくれた。
C委員	面としての広がりをどう作るかだ。そういう事で価値ができるのなら、応援していかなくてはならない。点であると消えていってしまうので、面にするにはどうするかというのが課題。
D委員	普通の居住とは違うが、こういう部分があっても、長野の魅力づくりになる。海外の人は、大きな寺のあるまち(長野)に来てよかったと言っている。こういった方面の事も取り入れていってもらえたら良いと考えている。
G委員	東北大学の先生が長野市に調査に来て、すごく長野のまちは良いと言っていた。
C委員	エリアの境界の外がおもしろいが、エリアが決まってしまうので。
A委員	いろいろな意見が出たが、参考にして欲しい。

他都市のフォローアップ状況について <資料6>

(説明者:事務局)

A委員	質問はあるか?
全員	ない

5. 事務連絡

6. 閉会